

平成28年度京都府立峰山高等学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（中間評価） 平成28年 9月

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○ 京都府北部の中核校として、伝統を継承しながら高い理想を求め続け、地域に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>○ 教育スローガン（校是）、教育方針、教育目標及び求める生徒像の具現化のため、全教職員が一体となって取り組む。</p> <p>○ 全教育活動を通して、生徒と教職員が共に成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価アンケートはほとんどの項目で昨年度の肯定率を上回り、各目標値もほぼ達成した。生徒対象「入学して良かった」、保護者対象「入学させて良かった」はそれぞれ95%、97%という高い肯定的回答を得た。 ・ 各種コンテストへは約1300名、「科学の教室」へは145名、高大連携事業へは149名といずれも昨年度を上回る多くの生徒が参加した。 ・ グローバルネットワーク京都交流会を始め、府立高校特色化事業を活用した各種講演会、国際交流会等様々な取組を通して国際理解が深まった。 ・ 遅刻者数、自主学習時間、授業満足度のいずれも目標値を達成した。 ・ 毎朝の教職員による積極的な校門指導、校外指導を通して、生徒の規範意識が向上すると共に、地域からの信頼も高まった。 ・ 学年部と生徒指導部が密に連携し、問題事象の未然防止につなげた。 ・ いじめ事象へは早期発見、早期対応で迅速に解決することができた。 ・ 依然と厳しい就職状況の中、早期に就職内定率100%を達成した。 ・ 国公立4大へは推薦10名を含め、延べ34名が合格した。 ・ 日々の継続的取組を通して「美化清掃」への意識が向上した。 ・ 積極的なスクールカウンセラーの活用と情報共有により個に応じた支援が進んだ。 ・ 大会議室活用の工夫等により、積極的に情報視聴覚機器を活用した。 ・ 峰高だより、お知らせメール、各種たより等、様々な広報活動を通して保護者、地域と連携し信頼を深めた。 ・ 夏季面談はP T A共催のもと、95%の保護者と面談を行った。 ・ 京都産業21、ポリテクカレッジ京都などの地元関連企業等と連携し、ハイレベルな技能に触れることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重点目標及び具体的方策の焦点化と目標値の検討 ・ 地域活動100への参加啓発 ・ 常習的遅刻者への効果的指導 ・ 学力中間層生徒の学力向上に向けた具体的手立て ・ 公開授業のより効果的在り方の検討 ・ 校内外の継続的な服装、頭髪及び交通マナーの指導 ・ 部活動加入率の向上 ・ 学年部、教務部、各教科担当と連携強化した進路指導 ・ 教職員、生徒の美化清掃へのさらなる意識改革 ・ 図書館の貸出冊数増加に向けた効果的取組 ・ メール登録者数の増加とタイムリーな情報発信 ・ 地元企業、校内関係分掌との連携強化による特色ある専門学科づくり 	<ol style="list-style-type: none"> 1 郷土愛の醸成と、高い理想を掲げて社会に貢献できる人材の育成 2 授業と課外活動との両立及び希望進路の実現 3 家庭や地域との連携

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
府立高校特色化事業「グローバルネットワーク京都」	アカデミックミネ・プロジェクトによる学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各種コンテストへの参加や検定試験、「科学の教室」への参加、高大連携事業への参加を促す。 【コンテスト参加、検定受検 延べ1100名以上】 【「科学の教室」参加 延べ150名以上】 【高大連携事業参加 延べ150名以上】 	B ----- B	<ul style="list-style-type: none"> 「科学の教室」をはじめとして、年間を通して計画的に事業を行い、意欲的な生徒も増加して、概ね数値目標を達成できる見通しである。 より広い視野を持ち、多角的に思考できる生徒を育成するために、各種取組へのさらなる積極的な参加を促す必要がある。 生徒の活動の様子や声等を紹介し、興味・関心の薄い生徒の参加も促進させる。
	コミュニケーション・プロジェクトによるコミュニケーション能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生や留学生、地域の方々等と交流をする。 	B	
	コミュニティ・プロジェクトによる社会貢献意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「地域活動100」と題し、生徒が地域で学ぶ機会を積極的に設け、各方面に参加を促す。 【地域活動参加事業数 100以上】 	B	
学習指導	主体的学習態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 教務部、学年部、生徒指導部等が連携し、保護者の協力を得て始業5分前登校を徹底させる。 【1日平均遅刻者数 6.5人以内】 【各学期10回以上遅刻者 延べ8名以内】 	A ----- A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末時点で、1日平均遅刻者 2.48人、10回以上の遅刻者0人、学習時間2時間9分、授業満足度「座学3.3」「実技3.4」とすべての項目で目標値を上回った。 2学期以降の気の緩み（1年生の慣れ、3年生の進路決定など）等による生徒の意識低下に留意し、より高い数値を目指して指導を継続していく必要がある。
	学力中間層生徒の学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 教科、学年部、教務部、進路指導部の連携により、生徒の学力を把握し、その伸長を図る。 【自主学習時間調査 1日2時間以上】 	B	
	教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 教科と連携し、効果的公開授業の在り方を探る。 【〈授業アンケート〉「授業に満足」全体平均3.2/4.0以上】 	B	
生徒指導	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 定期検査と毎朝の校門指導により、服装、頭髪指導を徹底し、あいさつの励行を促す。 【身だしなみ向上週間のチェック対象生徒 40名以内】 学年部と生徒指導部との連携を密にし、いじめを含む問題事象の未然防止に努める。 【学年会での情報交換 年間8回以上】 	C ----- B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の規範意識の向上と教職員の指導により、登下校・校内での身だしなみは改善方向にある。 年度当初の確認で教職員の指導事項の共有を図っているが、より一層の徹底が必要である。 19時30分完全下校は改善されつつあるがまだ不十分である。生徒・教職員ともさらなる徹底が必要である。 新入生の部活動加入率は84%（兼部を含めると89%）だが、活動が継続できるように支援する。 ボランティア活動は多くの生徒が各種活動に参加しほぼ目標値を達成している。
	特別活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率を向上させるとともに、学習と部活動との両立ができる環境を作る。 【新入生部活動加入率 85%以上】 【19時30分完全下校の徹底】 ボランティア活動参加者の増加に向け、情報収集と広報活動を充実させる。 【ボランティア活動参加 延べ150名以上】 	B ----- C ----- B	
	希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 学年部、教務部、各教科担当との連携を強化し、生徒個々の学力、希望の実態に即した指導と取組を行う。 【国公立大学合格者 延べ40名以上】 【就職内定率 100%】 【進路検討会 教科担当者会議 年間5回以上】 【進路担任面談 年間3回以上】 	----- ----- B ----- B	
進路指導	希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 学年部、教務部、各教科担当との連携を強化し、生徒個々の学力、希望の実態に即した指導と取組を行う。 【国公立大学合格者 延べ40名以上】 【就職内定率 100%】 【進路検討会 教科担当者会議 年間5回以上】 【進路担任面談 年間3回以上】 	----- ----- B ----- B	<ul style="list-style-type: none"> 進学・就職とも進路決定は現在進行中であるため評価できないが、目標実現に向かって進路指導部・学年部を中心に密な連携が図れており、生徒の指導に生かされている。 生徒の知的好奇心を喚起する各種取組を「知の探究－アカデミックセミナー」として、計画的に実施できている。

人権教育	人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> すべての教育活動を通じて生徒の自尊感情を高め、他者の人権を尊重する姿勢を育てる。 【〈生徒アンケート〉「生命や人権を尊重する指導が適切」 肯定率90%以上】 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種活動の中で多くの生徒に他者を大切にする意識は感じられる。 日常生活の中で常に人権を意識した指導を継続して行う必要がある。
健康・安全指導	教職員及び生徒の美化清掃へのさらなる意識向上	<ul style="list-style-type: none"> 清掃点検等生徒の委員会活動を活性化させる。 【〈生徒アンケート〉「美化、清掃が行き届いた教育環境」 肯定率85%以上】 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教室等の美化は進んでいるが、目の届きにくい場所の美化や生徒の自主的な行動など、日常的な美化意識の向上が課題である。 教育相談活動は情報交換や適切な支援について、一定の成果をあげている。
	教育相談関係生徒の実態把握と適切な支援	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談会議を適切に開催し、情報交換や支援の方法について協議する。 【定例会議 10回以上】 	B	
図書・情報活動	図書館利用の増加	<ul style="list-style-type: none"> 図書館を活用した教科や進路等の指導を工夫する。 【貸出数 一人年間3冊以上】 【利用者実数 350名以上】 	C ----- C	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の環境整備や広報を積極的に取り組んでいるが、貸出冊数・利用者共に目標値の3分の1程度にとどまっている。 教科・分掌等との連携を一層、深め、幅広い生徒が活用できるような工夫を行う必要がある。 校内LANは適切に運用されている。
	校内LANの適切な運用	<ul style="list-style-type: none"> 研修会等を通じて情報セキュリティ意識を高め、情報機器と情報を適切に取り扱う。 【校内LANの重大事象の発生 0件】 	A	
家庭・地域連携	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> H Pや「峰高だより」において生徒の活動を広く広報できるよう、情報共有を強化し、幅広くタイムリーに発信する。 【〈保護者アンケート〉「広報活動が充実」 肯定率80%以上】 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期にH Pを86回更新、「峰高だより」8回発行、お知らせメール23回配信できたが、よりタイムリーな情報発信のための校内システムの構築が課題である。 各種行事への保護者の方の関心は高まっている。P T A年度初総会への参加は近年では最も多く、夏の面談もほぼ100%実施できた。 スマートフォンの普及等、時代の変化にあわせた情報発信を研究する必要がある。
	地域・保護者・P T Aとの連携推進	<ul style="list-style-type: none"> 三者面談、P T A総会、P T A事業、学校祭等への積極的な参加を促す。 お知らせメールを活用し、学校の様子をタイムリーに保護者に伝える。 【〈保護者アンケート〉「家庭と担任や学校との連携」 肯定率75%以上】 	B ----- B	
特色ある専門学科	地元産業界との連携	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ受入企業を増加させ、生徒の進路希望や適性が反映できるようにする。 【17社以上】 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の適性や地域性を考慮して依頼をした結果、多くの新規企業を含め、インターンシップ受入が26社と増加した。 製造業への希望者が少ないので、企業見学や外部講師の活用などを通して指導を充実させる必要がある。 地元産業界と連携し、地域に求められる生徒像を具体化し、教育活動に反映させる必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ、企業見学等により職業意識を向上させる。 【関係進路 15人以上】 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ、就職等に対する指導を充実させ、地域に根差した人材の育成に繋げる。 【事前・事後指導5時間以上】 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 地元求人5社以上】 	B	